
RX ファミリ

R01AN1105JJ0101

Rev.1.01

RSPI シーケンス制御と割り込み発生タイミング

2014.07.01

要旨

本アプリケーションノートでは、RX ファミリのシリアルペリフェラルインタフェース(以下、RSPI)のシーケンス制御と割り込み発生タイミングについて説明します。

対象デバイス

- ・RX ファミリ

本アプリケーションノートを他のマイコンへ適用する場合、そのマイコンの仕様にあわせて変更し、十分評価してください。

目次

1. 周辺機能説明	3
1.1 RSPI マスタモードとシーケンス制御	3
1.2 1シーケンスでの送受信フレーム数と割り込み発生タイミング	4
2. 応用例	6
2.1 シーケンス制御応用例	6
3. 参考ドキュメント	8

1. 周辺機能説明

1.1 RSPI マスタモードとシーケンス制御

RSPI のマスタモードでは、SPSCR レジスタに設定されたシーケンス長に従って、最大で 8 つの転送フォーマットをハードウェアで切り替えながらシーケンシャルに送受信することができます。

図 1.1 に RSPI マスタモードでの構成図を示します。

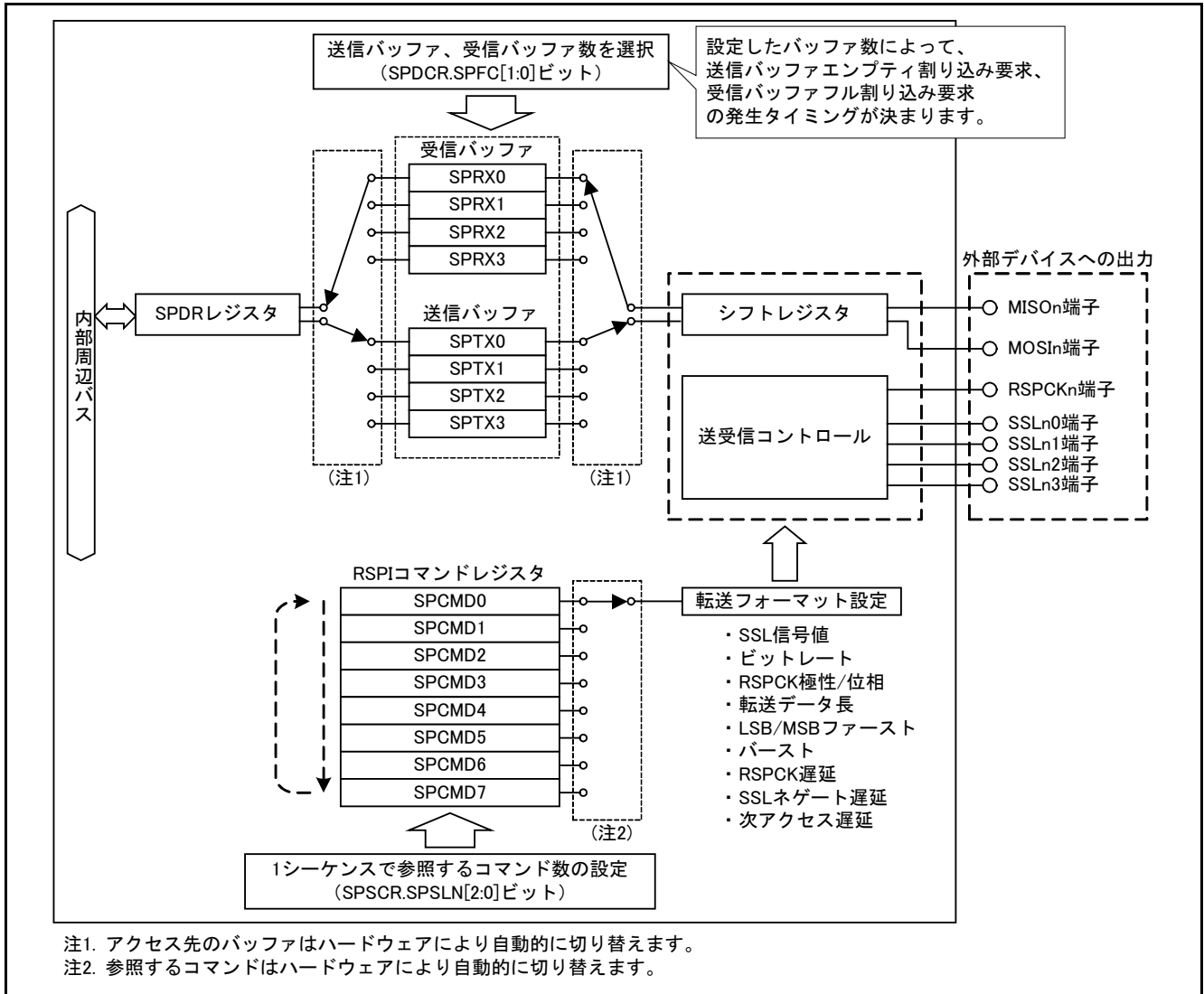


図 1.1 RSPI マスタモードでの構成図

外部デバイスへの出力は送信バッファに書き込んだデータと、RSPI コマンドで指定した転送フォーマットの設定(以下、コマンド)で決定されます。外部デバイスへの出力に関わるデータとコマンドの 2 つを合わせてフレームとします。

図 1.2 にフレームの概念図を示します。

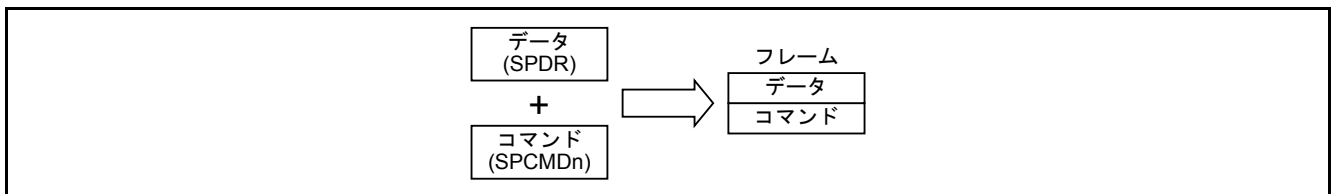


図 1.2 フレームの概念図

1.2 1 シーケンスでの送受信フレーム数と割り込み発生タイミング

1 シーケンスで送受信するフレーム数は、SPSCR.SPSSLN[2:0]ビットで選択したシーケンス長およびSPDCR.SPFC[1:0]ビットで選択したフレーム数の組み合わせで決まります。

1 シーケンスでのコマンド数はシーケンス長で決まり、送受信フレームのコマンドは SPCMD0~SPCMD7 レジスタで設定します。

1 シーケンスでの送信バッファエンプティ割り込み要求、受信バッファフル割り込み要求の発生タイミングは、フレーム数で決まり、設定したフレーム数のデータ送信開始時に送信バッファエンプティ割り込み要求が、データ受信時に受信バッファフル割り込み要求が発生します。

図 1.3に1 シーケンスのフレーム数と割り込み発生タイミングを示します。図 1.3で示す SPSCR.SPSSLN[2:0]ビットと SPDCR.SPFC[1:0]ビットの組み合わせ以外の設定を行った場合、以後の動作は保障されません。

	1フレーム目	2フレーム目	3フレーム目	4フレーム目	5フレーム目	6フレーム目	7フレーム目	8フレーム目
SPSSLN[2:0]=000b(シーケンス長=1) SPFC[1:0]=00b(1フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0							
SPSSLN[2:0]=000b(シーケンス長=1) SPFC[1:0]=01b(2フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0	SPTX1/SPRX1						
SPSSLN[2:0]=000b(シーケンス長=1) SPFC[1:0]=10b(3フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0	SPTX1/SPRX1	SPTX2/SPRX2					
SPSSLN[2:0]=000b(シーケンス長=1) SPFC[1:0]=11b(4フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0	SPTX1/SPRX1	SPTX2/SPRX2	SPTX3/SPRX3				
SPSSLN[2:0]=001b(シーケンス長=2) SPFC[1:0]=01b(2フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0	SPTX1/SPRX1						
SPSSLN[2:0]=010b(シーケンス長=3) SPFC[1:0]=10b(3フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0	SPTX1/SPRX1	SPTX2/SPRX2					
SPSSLN[2:0]=011b(シーケンス長=4) SPFC[1:0]=11b(4フレーム)の場合	割り込み発生							
	SPTX0/SPRX0	SPTX1/SPRX1	SPTX2/SPRX2	SPTX3/SPRX3				
SPSSLN[2:0]=100b(シーケンス長=5) SPFC[1:0]=00b(1フレーム)の場合	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生			
	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0		
SPSSLN[2:0]=101b(シーケンス長=6) SPFC[1:0]=00b(1フレーム)の場合	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生		
	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	
SPSSLN[2:0]=110b(シーケンス長=7) SPFC[1:0]=00b(1フレーム)の場合	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	
	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0
SPSSLN[2:0]=111b(シーケンス長=8) SPFC[1:0]=00b(1フレーム)の場合	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生	割り込み発生
	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0	SPTX0/SPRX0

割り込み発生 : 送信バッファエンプティ割り込み/受信バッファフル割り込み発生フレーム

図 1.3 1 シーケンスのフレーム数と割り込み発生タイミング

図1.4にSPSLN[2:0]="011b"(シーケンス長=4)およびSPFC[1:0]="11b"(4フレーム)時のフレーム作成動作を示します。

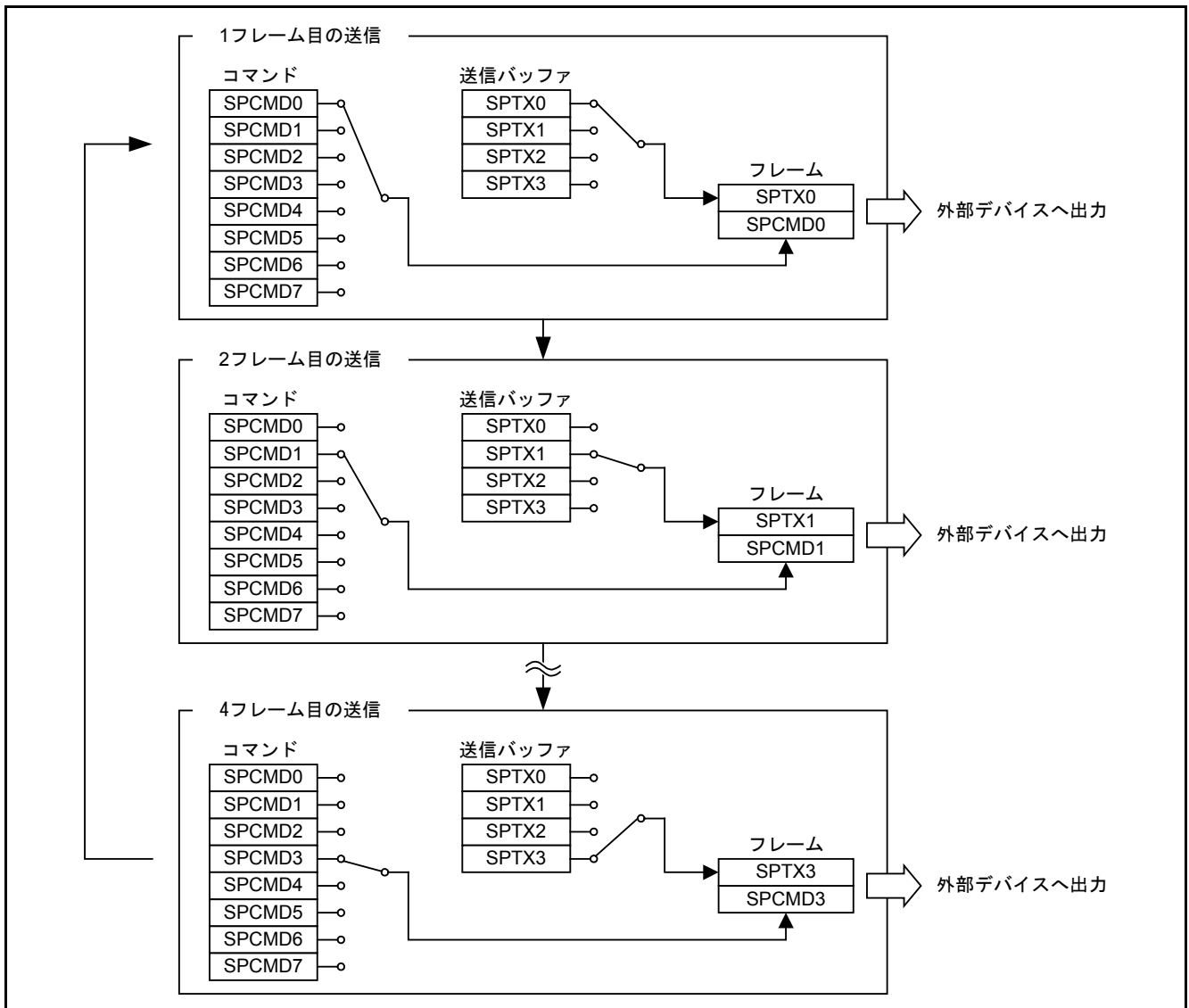


図1.4 SPSLN[2:0]="011b"(シーケンス長=4)およびSPFC[1:0]="11b"(4フレーム)時のフレーム作成動作

2. 応用例

2.1 シーケンス制御応用例

SPSCR.SPSSLN[2:0]ビットを”010b”(シーケンス長=3)、SPDCR.SPFC[1:0]ビットを”10b”(3 フレーム)を設定した場合の動作を例に説明します。

図 2.1 にシーケンス制御を使用した外部デバイスとの接続例を示します。

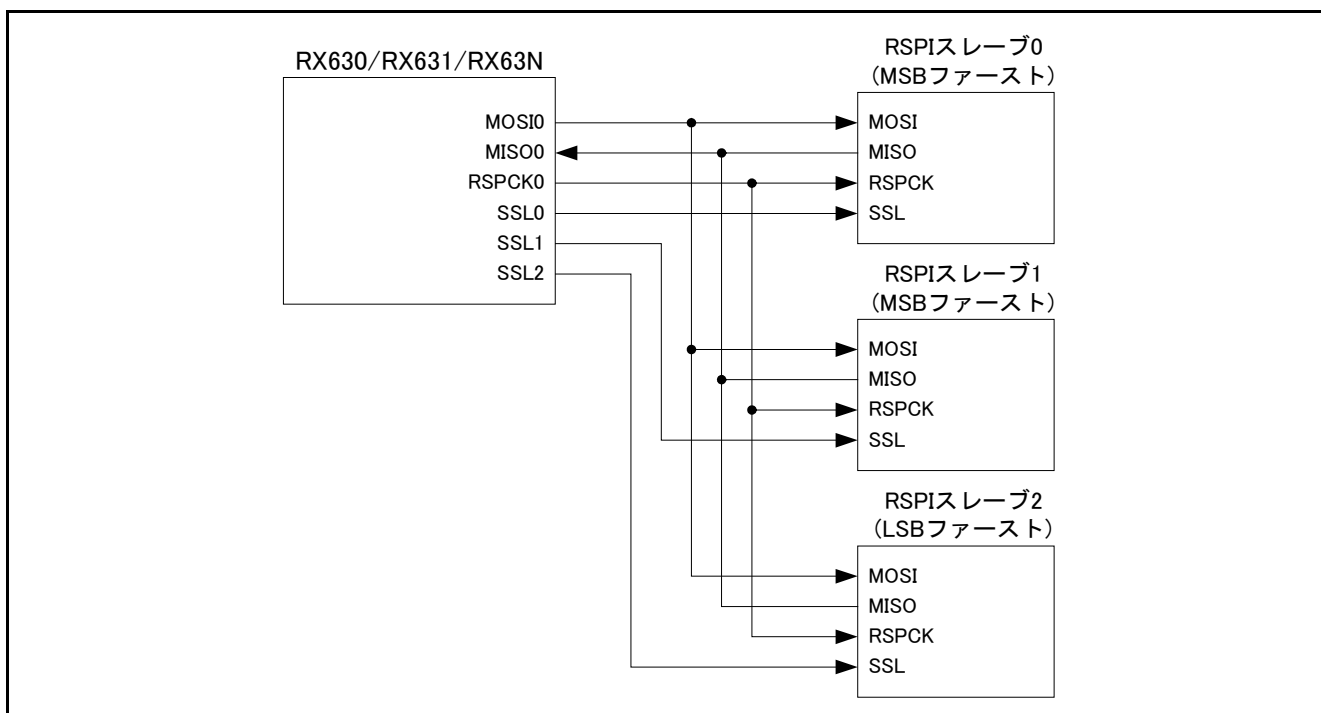


図2.1 シーケンス制御を使用した外部デバイスとの接続例

- (1) SPCMD0~SPCMD2 レジスタに 1 フレーム目~3 フレーム目までのコマンドを設定します。
SPCMD0 レジスタ(1 フレーム目のコマンド) : 0400h (MSB ファースト、SSL0 信号アサート)
SPCMD1 レジスタ(2 フレーム目のコマンド) : 0410h (MSB ファースト、SSL1 信号アサート)
SPCMD2 レジスタ(3 フレーム目のコマンド) : 1420h (LSB ファースト、SSL2 信号アサート)
- (2) SPDR レジスタに 3 フレーム分のデータを書き込むと、送受信を開始します。
- (3) SPCMD0 レジスタの設定に従って、1 フレーム目の送受信 (SSL0 端子から “Low” (アサート) 出力、MSB ファーストでデータ送受信) が行われます。
- (4) 1 フレーム目の送受信が完了すると、SPCMD1 レジスタの設定にしたがって 2 フレーム目の送受信(SSL1 端子から “Low” (アサート) 出力、MSB ファーストでデータ送受信) が行われます。
- (5) 2 フレーム目の送信データ出力後、SPTX2 レジスタ(3 フレーム目の送信バッファ) がシフトレジスタに転送され、送信バッファエンプティ割り込み要求が発生します。
- (6) 2 フレーム目の送受信が完了すると、SPCMD2 レジスタの設定にしたがって 3 フレーム目の送受信(SSL2 端子から “Low” (アサート) 出力、LSB ファーストでデータ送受信) が行われます。
- (7) 3 フレーム目の受信データが SPRX2 レジスタ(3 フレーム目の受信バッファ) に転送されると、受信完了割り込み要求が発生します。

図 2.2 にシーケンス制御動作例を示します。

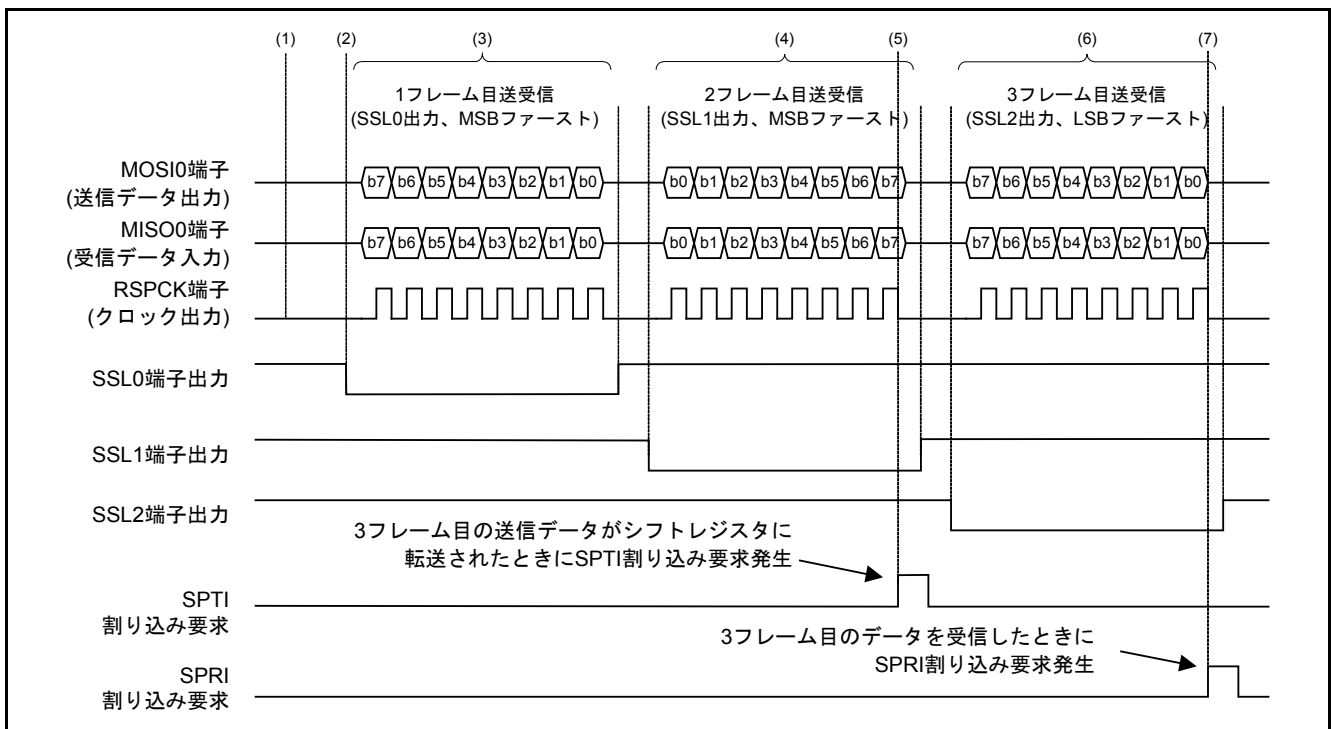


図2.2 シーケンス制御動作例

3. 参考ドキュメント

ユーザーズマニュアル：ハードウェア

RX630 グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.60 (R01UH0040JJ)

RX63N、RX631 グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.80 (R01UH0041JJ)

RX630 グループ、RX63N、RX631 グループ以外の製品をご使用の場合は、それぞれのユーザーズマニュアルハードウェア編を参照してください。

(最新版をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート/テクニカルニュース

(最新の情報をルネサス エレクトロニクスホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス エレクトロニクスホームページ

<http://japan.renesas.com>

お問合せ先

<http://japan.renesas.com/contact/>

改訂記録	RX ファミリ アプリケーションノート RSPi シーケンス制御と割り込み発生タイミング
------	---

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2012.8.1	—	初版発行
1.01	2014.7.1	1	対象デバイスを RX630 グループ、RX63N、RX631 グループから RX ファミリに変更

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

製品ご使用上の注意事項

ここでは、マイコン製品全体に適用する「使用上の注意事項」について説明します。個別の使用上の注意事項については、本ドキュメントおよびテクニカルアップデートを参照してください。

1. 未使用端子の処理

【注意】未使用端子は、本文の「未使用端子の処理」に従って処理してください。

CMOS製品の入力端子のインピーダンスは、一般に、ハイインピーダンスとなっています。未使用端子を開放状態で動作させると、誘導現象により、LSI周辺のノイズが印加され、LSI内部で貫通電流が流れたり、入力信号と認識されて誤動作を起こす恐れがあります。未使用端子は、本文「未使用端子の処理」で説明する指示に従い処理してください。

2. 電源投入時の処置

【注意】電源投入時は、製品の状態は不定です。

電源投入時には、LSIの内部回路の状態は不確定であり、レジスタの設定や各端子の状態は不定です。外部リセット端子でリセットする製品の場合、電源投入からリセットが有効になるまでの期間、端子の状態は保証できません。

同様に、内蔵パワーオンリセット機能を使用してリセットする製品の場合、電源投入からリセットのかかる一定電圧に達するまでの期間、端子の状態は保証できません。

3. リザーブアドレスのアクセス禁止

【注意】リザーブアドレスのアクセスを禁止します。

アドレス領域には、将来の機能拡張用に割り付けられているリザーブアドレスがあります。これらのアドレスをアクセスしたときの動作については、保証できませんので、アクセスしないようにしてください。

4. クロックについて

【注意】リセット時は、クロックが安定した後、リセットを解除してください。

プログラム実行中のクロック切り替え時は、切り替え先クロックが安定した後に切り替えてください。リセット時、外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックで動作を開始するシステムでは、クロックが十分安定した後、リセットを解除してください。また、プログラムの途中で外部発振子（または外部発振回路）を用いたクロックに切り替える場合は、切り替え先のクロックが十分安定してから切り替えてください。

5. 製品間の相違について

【注意】型名の異なる製品に変更する場合は、事前に問題ないことをご確認下さい。

同じグループのマイコンでも型名が違くと、内部メモリ、レイアウトパターンの相違などにより、特性が異なる場合があります。型名の異なる製品に変更する場合は、製品型名ごとにシステム評価試験を実施してください。

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器・システムの設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因して、お客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
3. 本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害に関し、当社は、何らの責任を負うものではありません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。かかる改造、改変、複製等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、
各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。
標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、
家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、
防災・防犯装置、各種安全装置等
当社製品は、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（原子力制御システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、使用することはできません。たとえ、意図しない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。なお、ご不明点がある場合は、当社営業にお問い合わせください。
6. 当社製品をご使用の際は、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他の保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
8. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問い合わせください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制するRoHS指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
9. 本資料に記載されている当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。また、当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍用用途に使用しないでください。当社製品または技術を輸出する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。
10. お客様の転売等により、本ご注意書き記載の諸条件に抵触して当社製品が使用され、その使用から損害が生じた場合、当社は何らの責任も負わず、お客様にてご負担して頂きますのでご了承ください。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。

注1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注1において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ルネサス エレクトロニクス株式会社

■営業お問合せ窓口

<http://www.renesas.com>

※営業お問合せ窓口の住所は変更になることがあります。最新情報につきましては、弊社ホームページをご覧ください。

ルネサス エレクトロニクス株式会社 〒100-0004 千代田区大手町2-6-2（日本ビル）

■技術的なお問合せおよび資料のご請求は下記へどうぞ。

総合お問合せ窓口：<http://japan.renesas.com/contact/>